



# 泗水小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」



泗水小学校  
学校だより No17  
文責 芹川博文  
9月8日(金)

## 「また したいです」 ～ 第1回泗水小サミット開催 ～

9月1日(金)の給食時間、校長室に児童会委員長12名の6年生に来てもらい、「第1回泗水小サミット」を開きました。そこで出た委員長からの意見は、次の通りです。

### 【泗水小の良いところは?】

- ◎あいさつ  
(自分から、だれにでも、大きな声で、元気な)
- ◎集中力・メリハリ(やるときはやる)
- ◎助け合い・やさしい(明るくて仲良い)
- 安全に行動

### 【泗水小のもっとがんばるころは?】

- ルールを守る  
(ヘルメット、チャイム着席、「さん」づけ etc.)
- 聞き方(放送の時、集会の時)
- 廊下を走らない、右側を歩く
- 自ら行動

12名の委員長の思いや考えを聞きながら、泗水小児童の可能性をひしひしと感じました。「しなさい」から「やるソウ」への転換を図りたいところです。「爽やかな挨拶響く泗水小」については、私からもお願いしました。子どもたちの考えと行動力で「泗水小が変わった」という実感をしてほしいと思います。



終わった時に、「またやりたいです」の声が出ました。「明日がたのしみ」となる学校づくりへの挑戦は、児童と一緒に続きます。

## 1回目より2回目 ～ 2回目の縦割り掃除スタート ～



上の写真は、9月4日(月)、2回目の縦割り掃除の初日の風景です。各掃除場所担当の6年生が中心になって、掃除の仕方や係を話し合っていて決めていました。1回目よりスムーズに、そして堂々と決めていく姿に頼もしさを感じました。学年を超えた繋がりが育まれています。

## あいさつで心をつなげ、人を笑顔に ～ 上野さんの作文から教えられること ～

「小学校から地域へ、あいさつで心をつなげ、人を笑顔にさせる輪を広げられたらうれしいです。」そう作文で綴ったのは、6年生の上野詩織さんです。社会を明るくする運動の作文の部で優秀賞を受賞した上野さん。先日、教室前で作文について話を聞いた際、爽やかな笑顔で、控えめながらも、「自分ができることを行動に移していこう」という強い意思が伝わってきました。

泗水小でいつも感じるのは、子どものもつ笑顔とあいさつのパワーの大きさです。彼らの笑顔とあいさつのシャワーを浴びると、一日のエネルギーが満タンに充電されます。なぜこんなにも元気がもらえるのか。その答えを上野さんの作文は教えてくれた気がします。

「私は社会が犯罪や非行だらけであるのを見ると、少しこわくなってきます。」「社会や地域に悪いことをしようと思っている人がいることに悲しくなります。」と、毎日のように報道されるニュースに心を痛める子どもたちがいます。

同時に、「知らない人に対して温かい声かけができるのは、かっこいいと思えるようになりました。」「誰に対しても、困っている人を助けたい、何かできることはないかと思いながら、今過ごしています。」と、可能性を見出し、言葉で表現して動き出す子どもたちもいます。

子どものまっすぐな思いに触れる時、何が大切なのか見えてくる気がします。大袈裟かもしれませんが、「この子たちが大人になった時、この地域や世界を、少しでも良くしておきたい」と、元気が湧いてきます。

上野さんの作文は次の言葉で締めくくられています。「温かな声かけとあいさつ。それこそが、小学生の私たちにできる、犯罪のない明るい社会を創るための活動だと思えます。」

子どもたちが思い描く未来を、大人もしっかりと支えていきたい、そう考えさせられました。

(裏面に全文を掲載しています。)



## 泗水小ほっこり話

☆ 放課後の昇降口から聞こえる英会話。ALTのJake(ジェイク)先生は、授業以外でも給食や下校の時間、英語で児童と話をされています。「本物」の英語が響いています。

